

◎本書の記述において下記のような誤りがありました。

【2024年8月6日現在】

○262 ページにおいて、図表 7-5「自分のみたての傾向の自覚」、図表 7-6「やりにくさを感じる相談者やテーマの自覚」の 2 点が抜けておりました。
読者のみなさまにご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

して受け入れることができるでしょう。今後研修を改善していく際の指針としていきます。

このアンケート以外にも研修前後のアンケートを実施しており、その単純集計は以下の表のとおりです。

これら図表 7-2 ～ 7-6 のアンケート結果から、受講者にネガティブ・ケイパビリティの必要性が認識され、研修の 3 つの目的に対して一定の成果があったものと考えています。

図表 7-6 については、受講者に実務経験豊富なキャリアコンサルタントが多かったため研修前から苦手な相談者やテーマに関する自覚があり、変化が見られなかったと考えられます。

図表 7-5 自分の見立ての傾向の自覚（n = 26）

項目	事前	事後	差
ある	16	21	+4
あるが言語化できない	8	3	-5
わからない	1	1	0
ない	0	1	+1

図表 7-6 やりにくさを感じる相談者やテーマの自覚（n = 26）

項目	事前	事後	差
ある	23	22	-1
あるが言語化できない	3	4	+1
わからない	0	0	0
ない	0	0	0